

科目名	基礎看護学実習 I		
担当教員	上山 里奈		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 45時間
科目のねらい	対象理解に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開できる。</li> <li>2. 基本原則に則った看護技術が実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を知る。</li> <li>4. 看護を実践する際に必要なことを考えることができる。</li> <li>5. 看護実践に必要な基本的態度がとれる。</li> </ol>		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス・オリエンテーションにより実習病院・病棟について知る。</li> <li>・シャドー実習により、患者の療養生活および看護の実際を知る。</li> <li>・受け持ち実習により、看護過程の前半部分の展開を行う。</li> </ul>		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 9日間</p> <p>実習方法</p> <p>実習病院のガイダンス 病棟オリエンテーション シャドー実習 成人又は老年期の患者を1名受け持ち、 対象の把握をする 全体カンファレンス</p> <p>* 詳細は基礎看護学実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書			
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		
担当教員	上山 里奈		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	対象に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開できる。</li> <li>2. 基本原則に則った看護技術が実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を知る。</li> <li>4. 看護を実践する際に必要なことを考えることができる。</li> <li>5. 看護実践に必要な基本的態度がとれる。</li> </ol>		
授業概要	受け持ち実習により、看護過程の展開を行う。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 成人又は老年期の患者を1名受け持ち、看護を展開する。</p> <p>* 詳細は基礎看護学実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書			
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人看護学実習		
担当教員	廣岡 未咲		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 45時間
科目のねらい	ライフサイクルにおける成人各期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、健康増進に向けた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会生活をおくる成人期にある人の特徴を発達と社会生活の側面から理解する。</li> <li>2. 成人期にある人の健康に影響を及ぼす要因について理解する。</li> <li>3. 成人期にある人の健康問題について、行われている看護を理解する。</li> <li>4. ヘルスプロモーションの視点から、保健・医療・福祉チームの連携と看護師の役割を理解する。</li> </ol>		
授業概要	実習施設で様々な健康状態にある成人期の人々と関わり、仕事、家庭などの社会生活の中で健康増進に向けた看護援助について理解します。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 成人看護学実習：7日間（1単位45時間）</p> <p>実習施設 岩見沢市立総合病院 外来 岩見沢市民健康センター</p> <p>実習方法 外来受診や健康診断を受ける成人期の対象との関わりや、行われている看護を見学し、必要な看護を計画・立案する。</p> <p>* 詳細については実習要綱を参照してください。</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書			
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	老年看護学実習		
担当教員	今泉 萌泉		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 45時間
科目のねらい	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象にあわせた日常生活援助の実際から老年看護の基礎を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象とその家族の特徴を理解できる。</li> <li>2. 加齢変化や健康障害が日常生活上におよぼす影響と、対象とその家族に必要な援助を理解できる。</li> <li>3. 加齢変化や健康障害をもつ対象に必要な援助を、安全・自立を考慮し実施できる。</li> <li>4. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 老年期にある対象とその家族との関わりを通して、老年看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 高齢者をとりまく保健・医療・福祉チームの連携の必要性和看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	3か所の実習施設で、様々な健康状態にある高齢者と関わり、老年期にある対象と日常生活援助について理解します。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 老年看護学実習：7日間(1単位45時間)</p> <p>実習施設 岩見沢市立栗沢病院 特別養護老人ホーム めくもりの郷 デイサービスセンター あすも</p> <p>* 詳細については実習要綱を参照してください。</p>		<p>実習前に施設オリエンテーションあり</p> <p>医療療養病床(3日間) 特別養護老人ホーム(2日間) デイサービスセンター(1日間) 学内カンファレンス(1日間) をローテーションしながら実習</p>
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ		
担当教員	林 美奈子 廣岡 未咲 今泉 萌泉		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	Ⅰ：2単位 90時間 Ⅱ：2単位 90時間
科目のねらい	成人・老年期にある健康障害を持つ対象とその家族を、生活者の視点から理解し、対象の健康レベルや生活歴、価値観に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害を持つ対象とその家族の発達段階をふまえ、生活者の視点から対象とその家族を理解できる。</li> <li>2. 対象の健康レベルや生活歴、価値観に応じた、看護計画の立案・実践・評価ができる。</li> <li>3. 対象とその家族に必要な援助を、安全・自立を考慮して実施できる。</li> <li>4. 対象とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 対象とその家族との関わりから、健康障害を持つ患者とその家族への看護を理解できる。</li> <li>6. 保健・医療・福祉チームの連携と看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	健康障害を持つ成人・老年期にある対象を受け持ち、生活者の視点から対象を理解し、対象の個別性を踏まえて看護過程を展開する。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 成人・老年看護学実習Ⅰ：3週間(2単位90時間) 成人・老年看護学実習Ⅱ：3週間(2単位90時間)</p> <p>実習施設 岩見沢市立総合病院 4階東, 5階西, 6階東, 6階西病棟</p> <p>実習方法 ・急性期から回復期、もしくは慢性期、終末期にある成人・老年期の患者1名を受け持ち看護過程を展開する。 ・実習1週目と3週目にカンファレンスを実施する。</p> <p>* 詳細については実習要綱を参照してください。</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	ループリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護論実習		
担当教員	畠山 恵理 佐藤 彩花		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学び多職種連携と社会資源の活用を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々とその家族のニーズを理解する。</li> <li>2. 地域で生活する人々とその家族のニーズに沿った看護を考えることができる。</li> <li>3. 地域で生活するための継続看護の重要性を理解する。</li> <li>4. 在宅看護の役割を理解し、自己の看護観を表現できる。</li> </ol>		
授業概要	地域の支援体制を理解し、地域で生活する人々とその家族の療養生活を支える看護過程を展開を学ぶ。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 訪問看護ステーション実習で事例1名に対し看護過程を展開します。</p> <p>訪問看護ステーション・地域包括支援センター 居宅介護支援事業所・デイサービスセンター グループホーム・こども家庭センター 岩見沢市立総合病院地域医療連携室 各施設をローテーションしながら実習します。</p> <p>* 詳細は地域・在宅看護論実習要綱を参照してください。</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示します。		
参考書			
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ		
担当教員	廣岡 未咲		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	手術を受ける成人・老年期の患者とその家族を生活者として統合的に理解し、対象の手術侵襲に伴う変化に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術を受ける対象とその家族の発達段階をふまえ、対象とその家族を生活者として統合的に理解できる。</li> <li>2. 対象とその家族に対して、手術の経過状況やセルフケア能力に応じた看護を展開できる。</li> <li>3. 対象とその家族に必要な援助を、安全と自立した生活の再構築を目指して実施できる。</li> <li>4. 対象とその家族の尊厳および権利を尊重し、倫理に基づいた看護実践ができる。</li> <li>5. 対象とその家族の関わりから、周手術期における看護について考えることができる。</li> <li>6. 保健・医療・福祉システムの一員として、多職種連携や看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	周手術期または急性期にある成人・老年期の患者を受け持ち、対象の手術侵襲に伴う変化に応じた看護過程を展開する。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 成人・老年看護学実習Ⅲ：3週間（2単位90時間）</p> <p>実習施設 岩見沢市立総合病院 3階東病棟, 手術室 市立札幌病院 救急救命センター</p> <p>実習方法 3週間の実習期間中に、病棟実習（10日間）、手術室実習（2日間）、救急救命センター（2日間）をローテーションする。 病棟実習では、周手術期または急性期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細については実習要綱を参照してください。</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ		
担当教員	今泉 萌泉		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	急性期から回復期にある成人・老年期の患者とその家族を生活者として統合的に理解し、その人らしさを尊重した看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期から回復期にある対象とその家族の発達段階をふまえ、対象とその家族を生活者として統合的に理解できる。</li> <li>2. 対象とその家族の生活歴や価値観を理解し、今後の生活を見据えて必要な看護を展開できる。</li> <li>3. 対象とその家族に必要な援助を、安全と自立した生活の再構築を目指して実施できる。</li> <li>4. 対象とその家族の尊厳および権利を尊重し、倫理に基づいた看護実践ができる。</li> <li>5. 対象とその家族の関わりから、その人らしさを尊重した看護について考えることができる。</li> <li>6. 対象とその家族を取り巻く保健・医療・福祉システムと連携について理解できる。</li> </ol>		
授業概要	急性期から回復期にある成人・老年期の患者を受け持ち、今後の生活を見据えて必要な看護を展開する。多職種カンファレンスに参加し、対象とその家族に必要な保健・医療・福祉システムや連携について理解する。		
授業計画	内容		内容
	<p>実習期間 成人・老年看護学実習Ⅳ：3週間(2単位90時間)</p> <p>実習施設 岩見沢市立総合病院 5階東病棟</p> <p>実習方法 急性期から回復期にある成人・老年期の患者1名を受け持ち看護過程を展開する。 実習1週目と3週目にカンファレンスを実施する。 実習2～3週目に多職種カンファレンスに参加する。</p> <p>* 詳細については実習要綱を参照してください。</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護学実習		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	小児看護の対象を理解し、小児の成長・発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児とその家族の特徴をふまえ、対象を理解することができる。</li> <li>2. 対象の発達段階・個別性を考慮した看護を展開できる。</li> <li>3. 健康障害のある小児とその家族に必要な援助を実施できる。</li> <li>4. 小児とその家族との関わりを通して、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 小児とその家族との関わりから、小児看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 小児を取り巻く保健医療福祉チームの連携と、看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
	3か所の実習場所で様々な状態にある小児とかかわり、小児の理解を深めます。病棟実習では小児患者を受け持ち、看護過程の展開を行います。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習場所 岩見沢市立総合病院 4階西病棟 小児科外来 岩見沢市内保育所</p> <p>実習方法 病棟・外来・保育所の3か所の施設で実習を行う 病棟実習では患児を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は小児看護学実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書	担当教員から提示する。		
評価基準方法	ルーブリックで評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	母性看護学実習		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・精神的・社会的特性を理解し、対象とその家族に適した母性看護を展開・実践するために必要な基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期の特性を踏まえ、対象の健康状態をアセスメントできる。</li> <li>2. ウェルネスの視点から、褥婦のセルフケア能力を高める看護を計画・実施し評価できる。</li> <li>3. 新生児の生理的適応を判断し、成長発達を促す援助を実施できる。</li> <li>4. 妊娠期の健康支援と看護者の役割について理解できる。</li> <li>5. 対象との相互関係を通して、看護職としての倫理的態度を行動で示せる。</li> <li>6. 実習体験を統合し、母性看護において大切にすべき視点について述べることができる。</li> <li>7. 母子支援における多職種連携と継続看護の重要性と看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	周産期各期の対象と家族への看護実践を通し、母子の健康維持と家族形成支援の基礎を学ぶ。母子のアセスメントに基づき、ウェルネスの視点からセルフケアを支援し、多職種連携や倫理的態度、継続看護の重要性を理解する。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 正常産婦・褥婦及び新生児を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は母性看護学実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	精神看護学実習		
担当教員	佐藤 かをり		
配当年度	3年 前期・後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	精神に障がいを持つ対象とその家族を理解し、精神看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障がいをもつ対象とその家族をふまえ、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。</li> <li>2. 対象の個別性を考慮した看護過程を展開できる。</li> <li>3. 精神に障がいをもつ対象とその家族に必要な援助が実施できる。</li> <li>4. 精神に障がいをもつ対象とその家族への援助をとおり、倫理的態度を身につけることができる。</li> <li>5. 精神に障がいをもつ対象とその家族への援助をとおり、精神看護の理解を深めることができる。</li> <li>6. 対象をとりまく保健医療福祉チーム連携と看護師の役割を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	精神に障害をもつ対象とその家族を理解し、疾患や精神症状だけにとらわれるのではなく、対象を生活者であることを捉え、援助の実践の理解と、援助的人間関係の形成、自己洞察を学びます。		
授業計画	内容		方法
	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 開放病棟または閉鎖病棟で1名を受け持ち看護過程を展開する。</p> <p>* 詳細は精神看護学実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書			
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	看護の統合と実践実習		
担当教員	熊木 美香      今泉 萌泉		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	2単位 90時間
科目のねらい	知識・技術を統合し、チームにおける看護師の役割・機能を学ぶと共に、様々な患者への看護を展開する基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院理念、看護部理念に則った看護管理を理解する。</li> <li>2. チームで継続して行われている看護について理解する。</li> <li>3. 複数患者に必要な看護について、優先順位を判断しながら実践できる。</li> <li>4. 看護専門職としての責任と役割を学ぶ。</li> </ol>		
	内容		方法
授業計画	<p>実習期間 3週間</p> <p>実習方法 実習1日目にガイダンス・オリエンテーションを受ける。 各自のスケジュールに則りシャドー実習を行う。 複数患者を受け持ち、看護実践を行う。</p> <p>* 詳細は看護の統合と実践実習要綱参照</p>		実習
使用テキスト	担当教員から提示する。		
参考書			
評価基準方法	実習の評価規定に基づき評価する。		
備考・学生へのメッセージ			